



悪臭を鼻でチェックするパネラー

市民の鼻で悪臭をチェック

富士201要綱

悪臭のない街づくりのための「富士市悪臭公害防止対策指導要綱」が、10月1日からスタートしました。この指導要綱は富士201要綱と名づけられ、人の鼻でいやな臭いをチェックするという官能試験法を取り入れています。

三点比較式臭袋法とは

人間の嗅覚により臭気の度合を判定するものです。この方法は、客観性や個人差など多くの問題について解明したもので、採取してきた悪臭を、無臭空気きで臭いの感じられなくなるまでうすめたときの希釈倍率（臭気濃度）で評価しようというものです。

市内には、紙パルプ製造業を中心に約1200の製造事業所と、約300の養鶏、養豚などの畜産業者があります。このうち約750の事業所が悪臭を出し、また100の事業所が市民からの苦情の対象になっており、いやな臭いについていろいろな問題を抱えています。

人間の鼻による悪臭の測定

現行の悪臭防止法では、指定8物質について機器測定による成分濃度規制方式がとられていますが、これだけではいろいろに混り合った悪臭の規制には十分ではありません。

これに対して「三点比較式臭袋法」

ではあらゆる悪臭の測定が可能です。

市は、市民からの悪臭苦情に、より適切に対応するため、この方法を取り入れました。

一番重要な悪臭の度合を測定するパネラーには、市民から公募した75人があたっています。

発生源には改善指導も

市は、市民から悪臭苦情のあった事業所の敷地境界線、また煙突などの気体排出口から出される臭気を排出口でそれぞれ測定し、その結果、基準に適合しないと認めるときは、発生事業所に改善するよう指導を行います。

グループ訪問②

“資源と心の大切さ”がねらい

原田リフォーム教室

リフォームとは古くなったものを再利用できるように作り直すことです。

「……でも、資源を大切にということだけでなく、心のリフォームもねらいとしているんですよ。」と語るのは、原田リフォーム教室の指導者鈴木愛子さん。週2回、原田公民館を会場としてすでに3年。会員は40人で20代から60代と幅広い。教室の会話から年代を越えたふれあいふれあが生まれる。それに、母親がリフォームしたものを子に着せる。そうしたことから自然に母と子のきずなが生まれるという。

着古した母親のミニスカートが子供のケーブに、父親



秋の文化祭に向けて、今日も製作に励むみなさんのワイシャツがブラウスに生まれ変わる。さらに近頃は、和服が洋服にリフォームされるのも、全員の技術が向上してきたあらわれとか……。

秋の文化祭の出品に向けて、手さばきが生き生きとしていました。